令和五年度　社会人入学試験（B日程）小論文

徳山看護専門学校

受験番号

氏　　名

得　　点

学校の先生をされていた方からお聞きした話です。

私は、学級担任をしていたとき、子供たちの名字（みょうじ）を授業中以外は呼び捨てにしていました。授業は特別真剣な場ですから、そのことを私自身に言い聞かせ子供たちにも意識付けるために、必ず「くん」や「さん」を付けていましたが、そうでないときには、ついつい呼び捨てになっていたのです。特に理由はありませんでしたが、多分親近感が次第にそうさせていったのでしょう。男性教員の多くがそうだったのかもしれません。子供たちも別に嫌がってはいませんでしたし。

しかし、年齢を重ねるごとに、子供たちの名字を呼び捨てにすることに疑問を感じるようになりました。名字はその子だけのものではなく、家族皆様のものです。子供の後ろには家族の方々がおられるのです。敬意を払うべきです。

また、名字は、祖先からの贈り物です。そのお宅の長い歴史があります。喜びもあったでしょう。悲しいこともたくさんあったでしょう。命がけで名字を守ったことがあったかもしれません。名字は尊く重いものです。

それを他人の私が無造作に呼び捨てにしていたのです。私は間違っていた、とはっきり思ったのは教壇から去った後でした。もう一度学級担任に戻ったら、私はどんなときでも「くん」「さん」を付けて子供たちを呼ぶでしょう。親しみとは別の、私の心の問題です。

あなたは、この言葉をどう受け止めますか。

原稿用紙の書き方の決まりに従い、段落を適切にとり、分かりやすい文章であることを心掛け、六〇〇字以内でまとめてください。

（二五字×二四行）